人文社会科学部の
今を伝える

Agora

51巻1号
山形大学人文社会科学部
2019.8.1

人文社会科学部ニュース<アゴラ>
“AGORA”とは、ギリシャ語で“広場”という意味です。

教員の研究を紹介するコーナー

ふぁんたすていっく！

私の専門は日本近代史です。明治初年に国家建設に携わった人物の考え方や、彼らが基盤とした組織（主に行政官庁）の活動の分析を通じて、現代日本の直接的起源である、近代国家の建設過程の解明に取り組んでいます。研究の方法としては、当時の人々が遺した文字資料＝史料を可能な限り博捜し、見つけた史料を一つ一つ精緻に読み解いてゆく、極めて地味で手間のかかる作業を行っています。知り合いの研究者からは、私の仕事は細かすぎて真似できないとよく言われますが、自分の性に合っているせいか、私自身はあまり苦に思ったことはありません。

例えば、私は生まれも育ちも宮城県ですが、都道府県が生まれる起源となった、江戸時代以来存在した藩を一挙に廃止した 1871 年の廃藩置県もこれまで扱ってきたテーマの一つです。従来の研究では、廃藩置県の断行やその意図については、実行に携わった井上馨（いのうえかおる）の後年の談話（『世外侯事歴維新財政談』）をもとに描かれるのが常でした。ところが、この談話のもとになった速記録（公益財団法人三井文庫に所蔵されています）を確認しますと、1873 年に行われた地租改正を 1874 年のこととし、また実母の没年を実際の 2 年前の 1870 年とするなど、井上の記憶力はお世辞にも良いとは言えないことがわかります。そこで私は、後年の談話に依拠するのではなく、当時井上自身が記した手紙や書類を網羅的に収集し、その内容を検討することで廃藩置県を行った井上の意図を復元するという地道な作業を行いました。その成果については、廃藩置県後に井上が拠点とした大蔵省の活動の分析とあわせて、最近著書にまとめたところです。現在は、「維新の三傑」として知られる大久保利通（おおくぼとしみち）や、立憲政治の導入に活躍した大隈重信（おおくましげのぶ）について研究を続けています。

ところで、井上の談話速記録には、談話がなされた 1910 年当時、内閣記録課において保存してあるはずの廃藩置県の号令に関する記録が見つからないという話が出てきます。研究上においても、明治政府発足以来の記録は、1873 年の皇居の火災によってそのほとんどが失われたと長らく考えられてきました。しかし、先述の史料博捜の過程で、内閣記録課を前身とする、政府の過去の記録を保存している国立公文書館に廃藩置県詔の原本（決裁原議）が所蔵されていることを突き止めました。100 年以上前に失われたとされてきた史料との邂逅も、歴史研究の醍醐味だと思います。

人間文化コース
准教授　小幡 圭祐

井上馨
（国立国会図書館ウェブサイト）

拙著

廃藩置県詔の原本（国立公文書館）